

# 【ねがいはしては】

第68号

平成6年9月26日

共和珠算学習塾

「チューインガムひとつ」『灰谷健次郎』著より

やすこちゃん あなたのかおがわすれられない いつもしずかに リリアンをあんでいたあなたのかお  
がっこうのかだんの ききょうのはなに いつもみずをあげていたあなたのかお きょうしつがわからず  
にないいた しん一ねんせいの手をひいて はずかしそうに しょくいんしつにはいつてきたあなたのかお  
そんなあなたのかおがわすれられない そんなあなたがドロボーをした

ドロボー なんていういやなことば やすこちゃん あなたはなきながらおかあさんにひきずられてきた  
おかあさんもなきながら・・・・・・

あなたはぎっていた手をひらいた 一まいのかみきれに 「せんせい わたしはわるいことをしました  
おみせのチューインガムをとりました もう二度としません ごめんなさい ごめんなさい」

そうかかれてあったね

リリアンをあんでいたやすこちゃんが はなにみずをあげていたやすこちゃんが

一ねんせいの手をひいていたやすこちゃんが そんなこと・・・・・・

おかあさんのかおはまっかになきはれている あなたのかおもおなじ おかあさんにかえってもらって  
ひろいきょうしつに やすこちゃんとせんせいだけがいた 「ほんとうのことをかこうね やすこちゃん」

そういったら あなたはまたないた ほんとうのことはとてもつらいこと ほんとうのことは

とてもかなしいこと

やすこちゃん せんせいもちいさいとき ドロボーをしたことがある せんそうがおわってすぐのころ

おこめのかわりに おいもをたべていたころのこと ちちとははがびょういんにはいつてしまった

るすのときのこと むぎのぞうすいがなくなって ふつかみつかと みずばかりのんでいた日のこと

おつきさんがきれいだったのに むしのこえがきれいだったのに せんせいは

がっこうのうらのはたけから トウモロコシーぼん ドロボーをした チューインガム一つ と

トウモロコシーぼん ほんとうのことはとてもかなしいこと ほんとうのことはとてもつらいこと

やすこちゃんがエンピツをもつ 一つじをかいでなく 二つじをかいでなく

ひろいきょうしつに やすこちゃんとせんせいだけ ふたりだけ

なみだも ふたりだけ むねがとてもいたい それも ふたりだけ

そして

そして あなたは うつくしいしをかいだ

せんせい おこらんとって せんせい おこらんとってね わたし ものすごくわるいことした

わたし おみせやさんの チューインガムとってん 一年生の子とふたりで

チューインガムとってしもてん すぐ みつかってしもた きつと かみ(神)さんが

おばさんにしらせたんや わたし ものもいわれへん からだが おもちゃみたいに

カタカタふるえるねん わたしが一年生の子に 「とり」いうてん 一年生の子が

「あんたもとり」いうたけど わたしはみつかったらいややから 「いやや」いうた

一年生の子がとった

でも わたしがわるい その子の百ばいも千ばいもわるい わるい わるい わるい わたしがわるい

おかあちゃんに みつからへんとおもとったのに やっぱり すぐ みつかった

あんなおかあちゃんのかお 見たことない あんなかなしそうなおかあちゃんのかお 見たことない

しぬくらいたたかれて 「こんな子 うちの子とちがう 出ていき」 おかあちゃんはなきながら

そないいうねん

わたし ひとりで出ていつてん いつでもいくこうえんにいったら

よその国へいったみたいな気がしたよ せんせい どこかへ いつてしまお とおもた

でも なんぼあるいても どこへもいくとこあらへん なんぼ かんがえても あしばかりふるえて

なんにも かんがえられへん おそうに うちへかえって さかなみたいににおかあちゃんにあやまってん

けど おかあちゃんは わたしのかおを見て ないてばかりいる わたしは どうして

あんなわるいことしてんやろ

もう二日もたっているのに おかあちゃんは まだ さみしそうにないている せんせい どないしよう